

ミラノサローネ特別展示「リビング・ネイチャー」

ミラノサローネ特別展示「リビング・ネイチャー」は、人間と自然の関係におけるサステイナブルな生活の価値観を再考する新しいプロジェクト。

第57回ミラノサローネでは、デザインとイノベーションで世界的に有名な建築事務所、カルロ・ラッティ・アソチャーティ(CRA)が手掛ける自然との共存について考える先端テクノロジーの大掛かりなプロジェクトがミラノの中心に登場します。

4月17日から25日まで、ドゥオモ広場のミラノ王宮前に透明な巨大パビリオンが出現し、人間と環境の関係、サステイナブルの発展の可能性を定義します。500㎡のスペース内において、4種の異なる季節を小宇宙で同時に体感できる仕掛けです。

このプロジェクトは、CRAとバルバラ・ローメルとのコラボレーションによるもので、プロジェクトの最終目的は、生態系が私たちに示唆している解決策を再現します。既存の技術革新を巧みに利用し、サステイナブルな解決策を提案します。このプロジェクトは、過度な冷暖房のエネルギー消費の問題に取り組み、将来適応できる可能性を十分秘めた太陽電池やエネルギー貯蔵の使用に基づいて、持続可能な気候制御技術の可能性を提案します。

5mの高さのパビリオンは、応答性のある結晶膜に覆われ、明るさに反応するセンサーを装備し、内部の気候条件を正確に調節することができます。一連の有機太陽光パネル、すなわち葉緑素の光合成プロセスからヒントを得た最新世代の太陽電池を装備した屋根は、「冬」のエリアを冷やすのに必要なエネルギーを提供します。また熱交換システムは「夏」のエリアを温めます。

ミラノサローネは、このイベントを通して短い期間ですが街の再緑化に貢献します。持続可能な方法で天然資源を利用することにより、都市と家の環境がより人間的で自然に優しくなることを証明しようとしています。

このプロジェクトでは、家庭や都市における生活環境を改善するために、環境の持続可能性と気候変動の問題に対処する方法を新たな視点から提案します。また、ハーバードの生物学者、エドワード・O・ウィルソン (Edward O. Wilson) が発案した「バイオフィリア」(生物、あるいは生命のシステムに対する愛情)の概念を裏付けるべく、人間は自然界へ本能的に引き込まれ、そこで癒されていることを体感します。



デザイン・コンセプト：カルロ・ラッティ・アソチャーティ&スタジオ・ローメル
デザイン・デベロップメント：カルロ・ラッティ・アソチャーティ
空間デザイン：スタジオ・ローメル
エンジニアリング・コンサルタント：AIスタジオ
ランドスケープ&ボタニック：パトリック・ブラン、フラビオ・ポラーノ
建設：PACチーム・エキスポ
グラフィック：スタジオ FM ミラノ

「リビング・ネイチャー」
2018年4月17日～25日
ドゥオモ広場
時間：10:00～22:00

Salone del Mobile.Milano Japan Press PR
Yuki Yamamoto 山本幸
yuki@milanosalone.com
tel. 392. 5979612

Press info:
Marva Griffin Wilshire
Patrizia Malfatti
press@salonemilano.it